

経済産業部

仕事の窓

皆で取り組もう、省エネルギー

【はじめに】

エネルギーは、今や国民生活や産業活動を支えるものとしてなくてはならないものですが、一方でエネルギー消費の増加に伴う地球環境への影響が深刻な問題となっています。

とりわけ、石油などの使用により排出される二酸化炭素などを原因とした地球温暖化も世界規模で解決すべき課題となっています。

政府としては、このような二酸化炭素排出を抑制することはもとより、エネルギー安定供給のための取組として、国民と一体となつた省エネルギー推進に関する各種政策を展開しているところです。

【二月は省エネ月間】

省エネルギーに当たっては、国民一人一人が省エネルギーに対する意識を高め、身近なものから実践することが重要です。

このことから政府においては、全国的に暖房機器の利用による電気、ガス、灯油等のエネルギーの消費が増大する二月を「省エネルギー月間」として定め、国民に對

し省エネルギー意識の高揚、一層の省エネの定着化を図ることとし、全国で様々な事業を行っております。

沖縄においては、これに合わせ本年二月二十五日に「平成十五年度省エネルギー推進沖縄大会」を実施し、若い世代や地域社会に対する省エネルギーを呼びかけるためのイベントとして、沖縄県内の小・中学生から応募のあった省エネルギーポスターコンクールの入賞者表彰とエネルギー管理者シンポジウムを開催しました。

【省エネのための心がけ】

省エネルギーは、家庭でもオフィスでも、様々な場面で、実践することが大切です。

例えば、家庭でのテレビのつけっぱなし

を止め、

室内の照明を白熱

球から蛍

光灯に切り替

え、こま

めに消灯

表彰風景



するなどによりエネルギーの無駄遣いが省けます。

また、家庭用電化製品を長時間使用しないときは、電源を抜くことによって待機時消費電力を少なくすることが出来ます。このように、私たちのちょっとした工夫がエネルギー消費量の減少に繋がります。

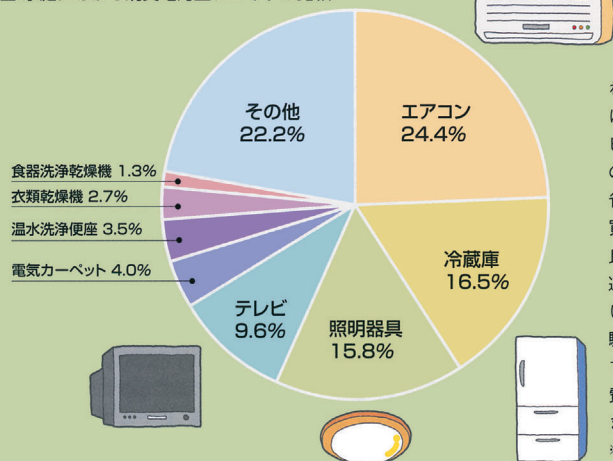
【おわりに】

沖縄では、竹富町立大原小学校や琉球大学付属中学校など五校が、平成十五年度省エネルギー教育推進モデル校として、省エネ学習プランを作成し省エネ学習を導入するなど、学校現場においても省エネルギーに対する

意識が広がりつつあります。

もう、当たり前のようにエネルギーを使う時代は終わりました。エネルギー問題は、皆が考えていかなければならない課題であり、さらに地球温暖化防止のためにも、省エネルギーは私たちのルールだと思いましよう。私たちや子供達の将来の生活環境を守っていくためにできることが省エネルギーです。

■ 家庭における消費電力量ウェイトの比較



わたしたちの家庭では、電気の約65%は、エアコン、冷蔵庫、照明器具、テレビの4つに使われています。消費電力量の多い機器にきちんと対応することが、省エネ効果を高めるポイントになります。買いかえるときには、エネルギー効率の良い機器を選ぶこと。そして、冷暖房の適正温度を守ったり、冷蔵庫のドアの開け閉めの回数を減らしたり、少しずつ無駄を省くだけで、毎月の電気代も変わってきます。(一般家庭1ヶ月の平均的な消費電力量は、地域、季節により差がありますが約300kWh程度です。)

※平成14年度電気事業便覧より

出所：資源エネルギー庁 平成14年度電力需要の概要(平成13年度推定実績)